

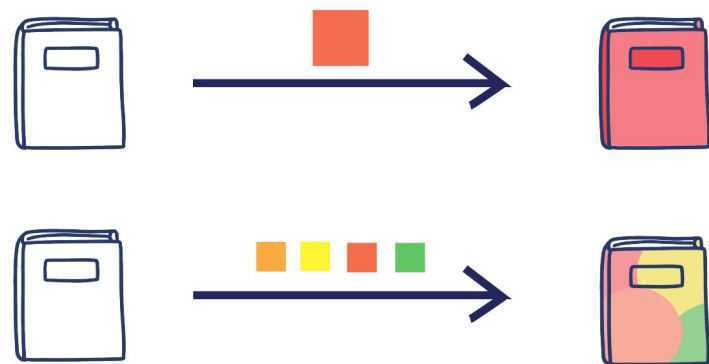
5 colors are with books

たとえば、まるで海の中のさかなのように、本の中で踊っている人たちがいる。
たとえば、読書していると、どこからか心地のよいメロディが聞こえてくる。
たとえば、子どもたちがのびのびと遊び回っていて、楽しそうにしている。
そんな風景が描けたら、それはきっと、これまで見たことがないような素敵で特別な図書館のはず。

私たちの知る図書館は、本が一律に並べられていて、天井が低くて、机と椅子が少しあるようなそんなところ。図書館はずなのに、本を読むことにすら窮屈さを覚えているかもしれない。
そこで、いまの図書館には無い4つの色 **踊る、奏でる、歌う色** **作る色** **遊ぶ、走る、運動する色** **寝そべる、くつろぐ色** から空間を考えてみる。
色同士は混ざりあって反応したり、階段や壁で区切られて分立したり。色は混ざり合うと、また新しい色が生まれる(たべる色、発表する色、見つける色、話す色 etc)。
そして、5つ目の色である **読む色** ももっと彩り溢れるものとなるように。「つづくひろば」は人を受け入れ、ささやかな本とのつながりをもたらしてくれる。

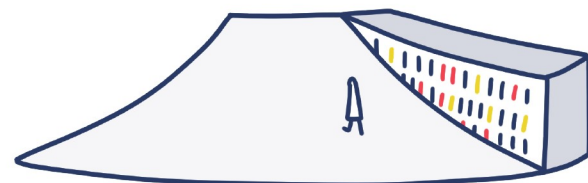
ここにおいて本は、無色透明な水のようなもの。近くの色にはっきりと染まる時もあるれば、複数の色が混ざりあったところで、溶け合うような本もある。
本は色と共にあることで、さまざまな興味や気づきをもたらすことだろう。本を読むときもある、読まないときもある、ここはそんなメディアプレイス。

本 は無色透明な水のような。



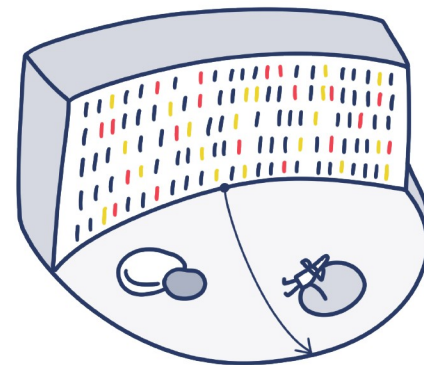
閉架図書の在り方

斜



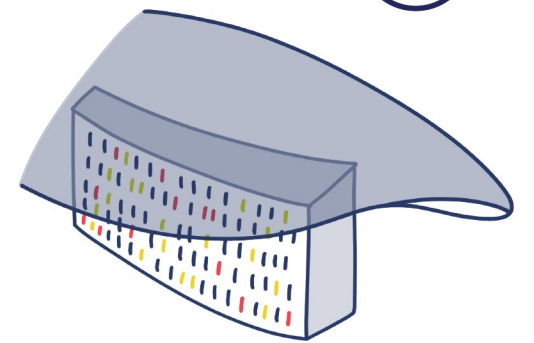
カラフルひろばに顔をのぞかせる閉架図書たち。

見

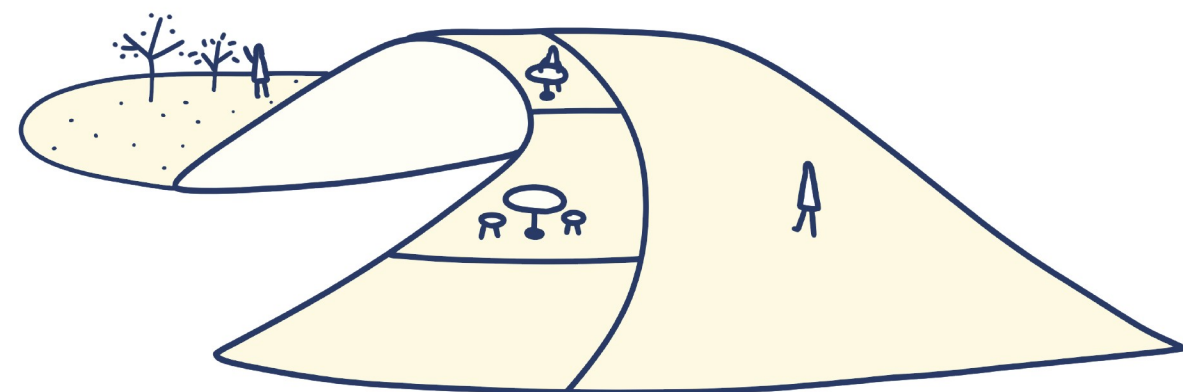


くつろぐ谷の先にはたくさんの本が見える。

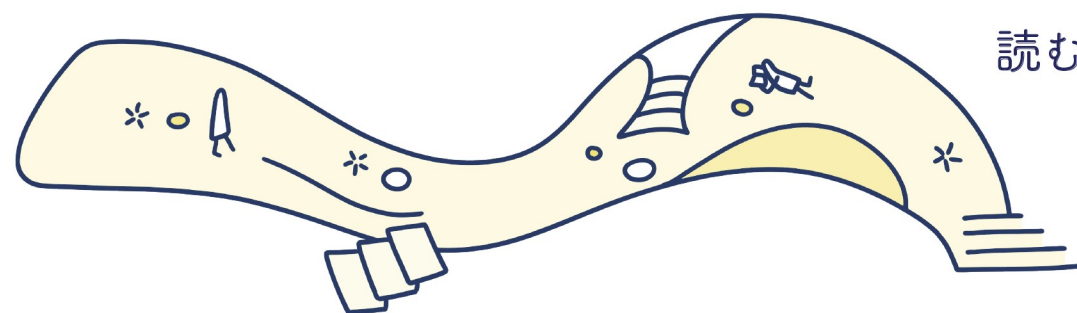
支



大屋根を支えるたくさん本たち。



すべての色が集うカラフルひろば。



読む色を豊かにする、つづくひろば。

▼つづくひろばの家具たち。

